

# 平和を考える6月



学校だより

## 文武両道

ぶんぶ りよう どう

第 3 号



初夏の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より本校教育へのご理解とご支援に對しまして改めてお礼申し上げます。

さて、沖縄に生きる私たちにとって、6月は特別な意味を持つ月です。

来る6月23日は、大切な「慰霊の日」を迎えます。かつて独自の文化を築き、琉球王国として栄えた沖縄は、明治時代の廃藩置県を経て沖縄県となりました。

そして今から81年前の昭和20年（一九四五年）、この美しい島々は太平洋戦争の凄惨な地上戦の舞台となり、多くの尊い命が失われました。犠牲者の多くは兵隊ではなく、私たちと同じように日々の営みを送っていた一般の住民でした。

石垣中学校の生徒の皆さんと同じ年代の子どもたちも戦場へと駆り出され、疎開船「対馬丸」の悲劇や「ひめゆりの塔」、そしてここ八重山でも西表島の「忘勿石」に代表されるような、筆舌に尽くしがたい悲劇が各地で起きたのです。

戦後も沖縄は27年間にわたりアメリカの統治下に置かれ、一九七二年にようやく本土復帰を果たしました。

しかし、復帰から半世紀以上が過ぎた今なお、極東最大の「嘉手納基地」や「普天間基地」など多くの米軍基地が偏在し、騒音や事件・事故の不安と隣り合わせの生活が続いています。

ニュースで報じられる入学式の中断や、学校敷地内からの不発弾の発見などは、決して他人事ではありません。

今を生きる子どもたちの日常に、今なお戦争の影が落とされているのが現状です。

毎年6月23日には、糸満市摩文仁の平和記念公園で「沖縄全戦没者追悼式」が行われ、戦没者のご冥福を祈るとともに恒久平和を誓い合います。

本校でも、6月を「平和月間」と位置づけ、6月11日には「平和集会」を予定しています。歴史の真実に触れ、平和の尊さをみんなで再確認する1ヶ月にしていきたいと思えます。

ここで、生徒の皆さんに問いかけます。皆さんは日頃、身近な平和を意識して言動できているでしょうか。平和とは、遠い国や過去の歴史だけの話ではありません。私たちが普段使う「言葉」は、時に人を励ます、

### 「慰霊の日」

81年前の6月23日、太平洋戦争末期に県民を巻き込んだ地上戦が終結しました。

沖縄県では、沖縄戦の終結の日を、沖縄戦の戦没者の霊を慰め平和を祈る「慰霊の日」として県の条例で記念日に定められています。

また、糸満市摩文仁（まぶに）の「沖縄平和祈念公園」では、沖縄全戦没者追悼式が執り行われ、県全域でも正午の時報とともに鳴るサイレンにあわせて、1分間の黙祷を捧げ、戦没者を追悼する沖縄県民にとっては大切な日となっています。

ぬくもりにもなれば、正しい方を間違えれば友だちの心を深く切り裂く凶器にもなります。

まずは、目の前にいる仲間への優しい言葉遣いや思いやり…それこそが、身近な平和をつくる第一歩です。お互いに意識を高めていきましょう。

そして、保護者の皆様へ心からのお願いがあります。子どもたちが今、こうして笑顔で学校に通い、未来を語り合える日常は、先人たちが幾多の苦難を乗り越え、命がけて繋いでくれた「命（ぬち）どう宝」のバトンそのものです。

ぜひ、この機会にご家庭でも平和や命の尊さ、

そして他者を思いやる心について言葉を交わしてみてください。

家庭での温かな対話こそが、子どもたちの心に平和の種をまく何よりの栄養となります。

学校と家庭が手を取り合い、悲しい歴史の教訓を学び、二度と戦争を繰り返さないという誓いを新たにす、そんな実りある6月にしていきたいでしょう。

石垣市立 石垣中学校

校長 宮良 健



# 感動の中体連夏季大会を終えて…

## ～本当の「強さ」を育む日常の関わり～

2日間にわたる中体連夏季大会が終了しました。各会場では、勝負の緊迫感の中で全力を尽くす生徒たちの姿、そして最後まで仲間を信じて声を掛け合う姿が見られ、深い感動を覚えました。

朝早くからの弁当の準備や、会場での温かいご声援など、保護者の皆様が多なるサポートに心より感謝申し上げます。

今大会を終え、学校では生徒たちに「強さは『日常』でつくられる」ということを伝えていきたいと考えております。

スポーツ面でも文化面でも、本当に強い人やチームは、試合の土壇場で「自分で状況を判断し、勝利への道筋を見つけて出す力」を持っています。

しかし、この力は部活動の時間だけで急に身につくものではありません。

授業中に自ら問いかけること、休み時間に次の準備をすること、掃除や行事に主体的に取り組むこと…そうした「学校生活のすべてが練習である」という意識を持ち、日々の生活で「自分で決

め、行動する」習慣があるからこそ、本番のプレッシャーにも動じない勝負強さが生まれると言われております。

これを受け、職員一同も「生徒の『自己決定』を支える環境づくり」に注力してまいります。

大人が先回りして指示を出すのではなく、「どうすれば解決できるか」を問いかけ、生徒が試行錯誤して自分たちで結論を導き出す「待つ時間」を大切にします。

学校生活の中に意図的な「余白」を作り、失敗も含めて自分たちで決める経験を積ませることで、本番での判断力や自律的な学習姿勢を養ってまいります。

ご家庭におかれましては、結果だけでなく、子どもたちが「自分で考えて行動したプロセス」をぜひ褒めてあげてください。

学校と家庭が手を取り合い、子どもたちが自分の意志で力強く歩み出せるよう、今後とも温かい見守りとご協力をよろしくお願い申し上げます。

